

令和7年度

「運営に関する計画」（案）



小中一貫須賀の森学園
大阪市立西淡路小学校

令和7年 4月

1 学校運営の中期目標

【現状と課題】

一人一人の違いを認め合う集団を育成し、違いを認め合い、自分と周りの人を大切にする態度を養うために、「いじめ(いのち)について考える日」や「平和集会」、「異学年交流」などの機会を設定・実施してきた。また、多文化共生教育についての課内実践も計画的に実施し、あらゆる教育活動においても、一人一人の違いを認め合う集団育成と、自分と周りの人を大切にする態度を養うことに重点を置いてきた。取組の結果、令和 6 年度末学校教育アンケートの「自分にはよいところがある」には 85.2 % の児童が肯定的に答え、教育実践の結果が実りつつある。しかし、令和 6 年度小学校学力経年調査における「自分にはよいところがある」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合は大阪市と比べてやや低かった。「どちらかといえばそう思う」と回答した児童の割合が多く、自信をもって自分自身を肯定できるまでには至っていない。本年度もこれまでの取組を継続しながら、児童の自己肯定感を高める取組に更なる工夫をしたい。

全ての子どもが心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓く力を備え、健やかに成長するために、不登校傾向にある児童の支援と不登校の解消は、本校でも大きな課題である。学級担任、人権教育主担者を中心として、チームで不登校解消に取り組みたい。

学力の向上について、数年来、基礎・基本の定着に重点を置いて、朝学習の機会を充実させ、「振り返りプリント」や「課題の積み残し 0 」への取組を進めた。しかし、令和 6 年度の小学校学力経年調査では、学年が上がるにつれて大阪市の平均を下回る教科が多くなる結果となった。これまで研究を進めてきた「誰一人とりのこすことなく全ての児童が主体的に学習に参加する授業」の重要性を再確認し、教員の授業力の研鑽に取り組み、本校児童のさらなる学力の向上をめざしたい。

【中期目標】

【安全・安心な教育の推進】

- 令和 7 年度の小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 85 % 以上にする。
(令和 4 年度 88 % 令和 5 年度 81 % 令和 6 年度 84.6 %)

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和 7 年度の全国学力・学習状況調査の思考・判断・表現に関する項目の平均正答率を、令和 3 年度より 3 ポイント増加させる。
(令和 3 年度 56.45 % 令和 4 年度 49.2 % 令和 5 年度 52.7 %
令和 6 年度 54.55 %)

【学びを支える教育環境の充実】

- 令和 7 年度末の校内調査の「学習者用端末を使った学習は楽しいですか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を 95 % 以上にする。
(令和 4 年度 94 % 令和 5 年度 92 % 令和 6 年度 92.9 %)

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安全・安心な教育の推進】

- 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を83%以上にする。(R4年度 81% R5年度 78.7% R6年度 77.5%)
- 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。(R4年度 2.3% R5年度 3% R6年度 4.1%)
- 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の人数を増加させる。(R4年度 3人改善 R5年度 3人改善 R6年度 6人改善)
- 年度末の校内調査における「自分にはよいところがある」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を50%以上にする。(R4年度 48% R5年度 48.1% R6年度 53.6%)

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を45%以上にする。(R4年度 37.2% R5年度 44% R6年度 38.3%)
- 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.02ポイント向上させる。R6年度（3年 国1.01 算1.04 4年 国1.09→0.99 算1.12→1.01
5年 国0.99→0.99 算1.05→0.99 6年 国1.01→0.91 算1.03→0.82）
- 小学校学力経年調査における「外国語(英語)の勉強は好きですか」に対して肯定的に回答する児童の割合を75%以上にする。(R5年度 75% R6年度 80.3%)
- 小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を70%以上にする。(R5年度 68% R6年度 64%)
- 年度末の校内調査における「宿題以外の学習(自主学習も含む)をしていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。(R5年度 90% R6年度 88.5%)

【学びを支える教育環境の充実】

- 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の60%以上にする。(R6年度 90% 心の天気あり)
- 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1(時間外勤務時間45時間を超える月数0、かつ、1年間の時間外勤務時間が360時間以下)を満たす教員の割合を昨年度以上にする。(R5年度 41% R6年度 59%)
- 年度末の校内調査における「学習者用端末を使った学習は楽しいですか」に対して肯定的に回答する児童の割合を95%以上にする。(R5年度 92% R6年度 92.9%)

3 本年度の自己評価結果の総括

【安全・安心な教育の推進】

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

【学びを支える教育環境の充実】

(様式 2)

大阪市立 (西淡路小学校) 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A : 目標を上回って達成した B : 目標どおりに達成した C : 取り組んだが目標を達成できなかった D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった	
年度目標	達成状況
<p>【最重要目標 1 安全・安心な教育の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことがありますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 8 3 % 以上にする。 ○ 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。 ○ 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。 ○ 年度末の校内調査における「自分にはよいところがある」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 5 0 % 以上にする。 	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向番号 1-1 いじめへの対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「いじめについて考える日」や「いじめアンケート」の実施によるいじめの未然防止、早期発見・解消の取組を徹底する。 ○ いじめ防止委員会（人権推進委員会）を実施し、児童の生活の様子、いじめや暴力行為等について情報を共有し、改善に向けて方向性を明確にする。 	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 校内のいじめアンケートを学期に1回実施し、認知したいじめについて話を聞き、解消した割合を 1 0 0 % にする。 ・ 月に 1 回いじめ防止委員会を実施する。 	
<p>取組内容②【基本的な方向番号 1-2、不登校への対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 家庭や地域と連携を図り、登校を促す支援を行う。 ○ 登校しやすい学校環境を整え、児童の支援体制を充実させる。 	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 校内調査において、新たに不登校になる児童を増やさないよう家庭との連携に努める。 ・ 校内調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 8 5 % 以上にする。 	

取組内容③【基本的な方向番号 2-2 2-3、人権を尊重する教育の推進】

- 各学年の教科等に合わせて人権学習を計画し、ゲストティーチャーとの授業や体験的な活動を通して、一人一人が違いを認め合い自信をもって学校生活が送れるようとする。

指標

- ・ 人権学習やゲストティーチャーとの学習を計画し実施する。
- ・ 学校生活アンケートを実施し、「自分にはよいところがある」に対して肯定的な回答を 85% 以上にする。

学校生活アンケートを実施し、「将来の夢や目標がありますか」に対して肯定的な回答を 89% 以上にする。

取組内容④【基本的な方向番号 1-5、防災・減災教育の推進】

- 防災・減災教育の年間計画を見直し、避難訓練(引き渡し訓練も含む)を実施する。
- 自ら危険を回避するために主体的に行動する態度を育成する。

指標

- ・ 避難訓練を年 5 回以上実施する。
- ・ 学校生活アンケートを 2 回実施し、「安全な避難方法について考えることができましたか」の項目で、前期、後期ともに肯定的な回答を 90% 以上にする。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

次年度への改善点

(様式 2)

大阪市立 (西淡路小学校) 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
	C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 45 %以上にする。 ○ 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.02 ポイント向上させる。 ○ 小学校学力経年調査における「外国語(英語)の勉強は好きですか」に対して肯定的に回答する児童の割合を 75 %以上にする。 ○ 小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、肯定的な「好き」を回答する児童の割合を 80 %以上にする。 ○ 年度末の校内調査における「宿題以外の学習(自主学習も含む)をしていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 90%以上にする。 	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向番号 4-2、「主体的・対話的で深い学び」の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 全学年で授業研究に取り組み、友だちと共に「主体的・対話的で深い学び」ができるよう推進する。 ○ 各教科で、考え、表現する能力の向上を図る。 ○ 学級文庫の充実に努め、毎週金曜日に、朝の 10 分間読書を行う。また、週 4 回の図書館開放を行い、読書に親しむ機会を増やす。 ○ 家庭で取り組める学習内容を提示したり、アドバイスをしたりしながら、児童が意欲的に宿題以外の学習にも取り組めるようにする。また、家庭学習の大切さを家庭に啓発する。 	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 実施計画に従い各学年で年間 1 回以上の国語科における対話力の育成を意識した授業研究に取り組む。また、メンター研修を年間 6 回以上設定したり、個人での授業研究に取り組んだりする。授業では、ペアやグループによる効果的な学習を全学年 1 日に 1 回以上、取り入れる。学期に 1 回の授業アンケートで、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか。」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 4 	

5 %以上にする。

- ・ 毎週 2 回の朝学習で、思考ツールを使用し、自分の考えを整理して、文章に表現する。その文章を活用し、スピーチなどの表現活動につなげていく。そして、どの教科でも思考ツールを使って自分の考えを整理できるようにしていく。
- ・ 年度末の校内調査における「週に 1 回以上読書をしていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 80 %以上にする。
- ・ 年度末の校内調査における「宿題以外の学習(自主学習も含む)をしていますか。」に対して、肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 90 %以上にする。また、毎月の学年だよりで、つけてほしい学習の力を紹介し、家庭学習の助けとする。

取組内容②【基本的な方向番号 4-3、英語教育の強化】

- 全学年で週 2 回の英語タイム(短時間学習)を実施する。
- C-NET や中学校の英語教諭とのチームティーチングを実施する。

指標

- ・ 年度末の校内調査における「外国語(英語)の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 75 %以上にする。
- ・ 中学校と連携を取り、週に 1 時間、3・4・5 年生の外国語の授業で、コミュニケーションアクティビティを取り入れる。
- ・ C-NET と連携を取り、週に 1 時間、6 年生の英語の授業でチームティーチングを行う。

取組内容③【基本的な方向番号 5-1、体力・運動能力向上のための取組の推進】

- 子どもたちの体力向上を目指した朝会を取り入れ、体づくりへの意識を高める。
- かけ足週間やなわとび週間を設けて、体力・運動能力の向上を図る。

指標

- ・ 学期に 2 回以上、運動委員会や教員から提案する運動朝会を取り入れ、体を動かす機会を持つ。
- ・ 年度末の校内調査における「運動するのは好きですか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 80 %以上にする。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

次年度への改善点

(様式 2)

大阪市立 (西淡路小学校) 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】</p> <p>○ 1 年生は 2 学期から、2 ~ 6 年生は 5 月からの授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 60 % 以上にする。</p> <p>○ 第 2 期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準 1 (時間外勤務時間 45 時間を超える月数 0 、かつ、1 年間の時間外勤務時間が 360 時間以下) を満たす教員の割合を昨年度以上にする。</p> <p>○ 年度末の校内調査における「学習者用端末を使った学習は楽しいですか」に対して肯定的に回答する児童の割合を 95 % 以上にする。</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向番号 6-1、ICT を活用した教育の推進】</p> <p>○ ICT を効果的に活用した授業実践を行う。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 週に 3 回以上児童が端末を活用できるように、情報活用能力を習得・活用する授業の年間指導計画を立てる。ならびに、情報活用能力到達目標を立てる。 ・ 学期と長期休業（夏・冬）に各 1 回以上をめやすに、年間で 5 回以上の研修を実施し、児童や教員が広く取り組みやすい環境を整える。 	
<p>取組内容②【基本的な方向番号 7-1、働き方改革の推進】</p> <p>○ 教員の長時間勤務の解消を図る。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 紙の資料の印刷を減らして会議資料のデジタル化に取り組んだり、会議に参加する人数を減らしたりすることで、会議の時間短縮や効率化を図る。 ・ 校務のデジタル化を推進したり、スクールサポートスタッフを活用したりすることで仕事の効率化を図る。 	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
次年度への改善点	

令和 7 (2025) 年度 学校関係者評価報告書

大阪市立 西淡路小学校 学校協議会

1 総括についての評価

--

2 年度目標（全市共通・学校園）ごとの評価

年度目標：小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことがありますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を83%以上にする。(R5年度 78.7% R6年度 77.5%)

--

年度目標：年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。(R5年度 3% R6年度 4%)

--

3 今後の学校園の運営についての意見

--